



<発表資料>

- 社史・アーカイブ総合研究所 - 文字ばかりの社史は読まれないのか

制作しようとしている社史は、活字に親しんでいない人が読者の中心になるのでしょうか。その確認が第一です。主要な読者を中堅社員以上に絞って会社の歴史をしっかりと伝えたいならば、文章中心にならざるを得ないでしょう。

より多くの人に読まれたい場合、写真をたくさん掲載するのが手っ取り早い解決法です。写真はイメージを伝えるのに適していますし、見た目にも親しみやすい印象を与えます。ただ、写真を中心にした社史では、史料としての価値は低くなります。

読者対象や狙いによって異なる文章の多寡や文体

- 中堅社員以上に絞って会社の歴史を伝えるなら、文章中心
- 幅広い層の読者を対象にするなら、写真を多用
- 親しみやすさを狙うなら、「お話」風にまとめたり、マンガで表したりする方法も

企画そのものに目を向けると、史実の記録を中心にした社史ではなく、「お話」風に歴史をまとめる方法もあります。大阪のある製菓会社さんでは、「堅苦しい話はしたくないので」ということで、「物語」と銘打って文庫判の社史を出されました。小説のような親しみやすい文体も特徴です。

大胆な例では、創設者の伝記などをマンガで表した社史もあります。マンガですと会社の歴史全般に触れることは難しいので、テーマを絞ってストーリーを展開することになりますが、新入社員にとっては格好のテキストになるようです。

要は会社としてどのような効果がほしいのかを明確にして、そのためにはどうあればよいのかを考えることが肝要です。

(本資料使用上の留意点について)

本資料は当社が独自に収集したデータを基に作成しております。その正確性と最新性の確保に努めていますが、完全性を保証するものではありません。調査、分析、統計処理等によってその都度データを更新する場合があります。当資料の内容に関するいかなる間違い、不掲載についても一切の責任を負うものではありません。資料に示したすべての内容は、当社の現時点での判断を示しているに過ぎません。利用に際しては御自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。その他、当資料の取り扱い事項は当研究所の会員規約に準じます。

(著作権について)

本資料は当社の著作物であり、著作権法により保護されております。
当社の事前の承諾なく、本資料の全部もしくは一部引用または複製、転送等により使用することを禁じます。

- 組織情報 -



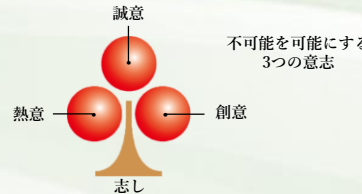
ビジネスのDNAを次世代に伝える
出版文化社

【代表者】
代表取締役社長 木戸清隆
【創立】
1984年2月6日
【資本金】
99,234,300円

【東京カンパニー】
東京都中央区新川1-8-8
アクロス新川ビル4F
TEL：03-6823-6820（代）
【大阪カンパニー】
大阪市淀川区西中島5丁目13-9
新大阪MTビル1号館9F
TEL：06-7777-9730（代）
【名古屋支社】
名古屋市熱田区五本松町7-30
熱田メディアウイング3F
TEL：052-990-9090（代）

Learning Organization

豊富な実績を基に多様な社史・記念誌づくりを提案します。
編集は自社内で一貫して行っています。
専門家＝アーキビストが常駐しています。
品質管理、情報セキュリティのISOを取得している日本唯一の出版社です



-社史とアーカイブに関する日本初、唯一のシンクタンク-



社史・アーカイブ総合研究所

CORPORATE HISTORIES AND ARCHIVES RESEARCH INSTITUTE

社史・アーカイブ総合研究所は『社史・記念誌の有効活用と、ビジネス・アーカイブの普及への貢献』という大きな目標を掲げ、2019年に設立した専門研究機関です。社史とビジネス・アーカイブに関する情報の収集、コンテンツの企画と発信を行っています。

運営組織 社史・アーカイブ総合研究所
英文 Corporate Histories and Archives Research Institute
代表者 小谷允志
設立 2019年10月1日
研究員数 8名（東京6名・大阪2名）